

釧路湿原自然再生協議会再生普及小委員会

第 11 回 湿原学習のための学校支援ワーキンググループ

日時： 令和 2 年 9 月 11 日（金） 15：30～17：00

場所： 釧路地方合同庁舎 7 階 第 5 会議室

----- 議 事 次 第 -----

1. 開 会
2. 議 事
 - 1) 第 10 回ワーキンググループ会合以降の取組み
 - 2) 今後の取組みの方向性について
3. その他
4. 閉 会

----- 配布資料一覧 -----

- 第 11 回湿原学習のための学校支援ワーキンググループ 資料
- ・ 資料 1 第 10 回ワーキンググループ会合以降の取組み
 - ・ 資料 2 今後の取組みの方向性について

出席者名簿(敬称略・順不同)

< 専門家 >

所属等	氏 名
再生普及小委員会委員長	高橋 忠一 ◎
北海道教育大学釧路校 教授	境 智洋 ○

< 学校教員 >

所属等	出席者
釧路市立中央小学校	山本 翔太
釧路市立芦野小学校	木村 浩二
釧路町立別保小学校	瀬野 明奈 ○
標茶町立標茶小学校	蛭名 千明
鶴居村立下幌呂小学校	柴田 康吉
鶴居村立幌呂中学校	長谷 泰昌 ◎
釧路湖陵高等学校	池田 耕 ◎

< 学校教育行政機関等 >

機 関 名	出席者
北海道教育庁釧路教育局 教育支援課 義務教育指導班	指導主事 佐々木 慶典 ◎
釧路市教育委員会 学校教育部 教育支援課	指導主事 畠山 和彦 ◎
	指導主事 関本 裕介 ◎
釧路町教育委員会 教育部 指導主事室	室長 加藤 誠一
標茶町教育委員会 指導室	指導室長 秋山 豊 ○
弟子屈町教育委員会 指導室	指導室長 辻川 智宏
鶴居村教育委員会 管理課 学校教育係	係長 清野 玲子
環境省北海道地方環境事務所 釧路自然環境事務所	自然再生企画官 瀬川 涼 ◎

注釈) ◎開催場所への参加 ○オンラインでの参加

< 事務局 >

機 関 名	出席者
環境省北海道地方環境事務所 釧路自然環境事務所	自然保護官 瀧口 さやか
公益財団法人北海道環境財団	環境教育課長 山本 泰志
	環境事業課長 安保 芳久
	環境教育課 安田 智子

第10回ワーキンググループ会合以降の取組み

1. 湿原を題材とした学習素材の収集、活用の促進

○学校における実践の企画・取材、フィールド情報マップとりまとめ

釧路湿原流域において、フィールド学習が可能な場所を実践例と合わせて紹介する「フィールド情報マップ (kushiro-ee.jp/fieldmap)」に温根内木道および細岡展望地・周辺フィールドのフィールド情報、実践事例を追加した。



(温根内木道の紹介ページ)



(細岡展望地・周辺フィールドの紹介ページ)

2. 自然再生の学校教育への活用促進

○達古武地区森林再生および達古武湖自然再生事業地の活用

- ・ 標茶町立標茶小学校 フィールド学習の事前案内
- 実施日時 : 令和2年7月3日(金) 15:30~17:00
- 実施場所 : 達古武地区森林再生事業地(苗畑)、夢ヶ丘遊歩道、達古武湖(湖畔)
- 対象 : 5年生担任教諭
- 主な内容 : フィールドおよびプログラムの紹介



- ・ 標茶町立標茶小学校 フィールド学習での案内
 - 実施日時 : 令和2年7月9日(金) 9:40~11:50
 - 実施場所 : 達古武地区森林再生事業地(苗畑)、
夢ヶ丘遊歩道、達古武湖(湖畔)
 - 対象 : 5年生 52名
 - 主な内容 : 森づくりの取組み紹介、
生き物調査等プログラムの実施



- ・ 釧路湖陵高等学校 釧路湿原巡検に向けた事前講義
 - 実施日時 : 令和2年7月20日(月) 13:20~14:10
 - 実施場所 : 釧路湖陵高等学校
 - 対象 : 理数科1年生 40名
 - 主な内容 : 釧路湿原巡検について

《以下、森林再生小委員会事務局として環境省釧路自然環境事務所が実施》

- ・ 釧路湖陵高等学校 釧路湿原巡検の事前案内
 - 実施日時 : 令和2年8月5日(水) 13:30~17:00
 - 実施場所 : 達古武地区森林再生事業地、東沢
 - 対象 : 教諭3名
 - 案内 : さっぽろ自然調査館
 - 主な内容 : フィールドおよびプログラムの紹介



- ・ 釧路湖陵高等学校 釧路湿原巡検に向けたフィールドでの準備の指導
 - 実施日時 : 令和2年8月19日(木) 13:30~16:30
 - 実施場所 : 達古武地区森林再生事業地、東沢
 - 対象 : 理数科1年生 代表生徒8名
 - 指導 : さっぽろ自然調査館
 - 主な内容 : 取組みの紹介、地表性昆虫調査
に向けたトラップ設置の指導



- ・ 釧路湖陵高等学校 釧路湿原巡検における指導
 - 実施日時 : 令和2年8月26日(水) 8:30~16:30
 - 実施場所 : 達古武地区森林再生事業地、東沢、
湖畔、夢ヶ丘遊歩道
 - 対象 : 釧路湖陵高等学校 理数科1年生 40名
 - 指導 : さっぽろ自然調査館、
釧路自然環境事務所
 - 主な内容 : 森づくりの取組み紹介、地表性昆虫
および水辺の生き物調査、遊歩道でのレクチャー



3. 学校教員の関心喚起、湿原の教育的な価値の普及

○教員研修講座の実施

- ・ハンノキ林から冬のヨシ・スゲ湿原をいく

[日時] 令和2年1月7日(火) 9:00~11:30

[場所] 釧路湿原右岸堤防周辺フィールド
(鶴居村温根内)

[講師] 新庄 久志氏
(釧路国際ウェットランドセンター技術委員長)

[参加者] 4名

[内容] 冬の湿原に分け入り、土砂や栄養の違いから生息する植物が変化していく様子を体感した。



○授業支援の実施

- ・釧路市立鳥取小学校 フィールド学習

実施日時 : 令和2年2月20日(木) 9:10~11:25

令和2年2月21日(金) 9:10~11:25

実施場所 : 温根内ビジターセンター周辺フィールド、釧路湿原右岸堤防

対象 : 3年生 63名
(クラス毎に日を分けて実施)

主な内容 : スノーシューや歩くスキーでの冬の湿原散策(案内とレクチャー)



○釧路湿原流域環境を題材とした学びのプロセスの支援、実践等の発表の場作り

- ・釧路湿原サイエンスフェアの開催

釧路市立中央小学校(以下、中央小)、釧路町立別保小学校(以下、別保小)、標茶町立標茶小学校(以下、標茶小)の5年生児童がとりまとめた研究発表ボードの一部を借用し、以下の施設等において展示を行った。

実施日	実施場所	概要
令和2年 1月24日~2月3日	標茶町開発センター	標茶小の学区内に位置する施設において、標茶小から借用したボードを展示
令和2年 2月4日~2月20日	塘路湖エコミュージアム センター	標茶小から借用したボードを展示
令和2年 2月17日~2月26日	釧路市役所 防災庁舎	中央小の学区内に位置する釧路市役所において、中央小から借用したボードを展示
令和2年 2月21日~2月26日	標茶町博物館	標茶小から借用したボードを展示
令和2年 3月22日~4月12日	釧路市子ども遊学館	中央小の学区内に位置する施設において、標茶小および中央小、別保小から借用したボードを展示



・フィールド学習のコーディネイト

標茶小、中央小、別保小において、自然再生事業地や釧路湿原を活用したフィールド学習のコーディネイト、フィールド学習実施時のプログラム進行を行った。

➤ 釧路市立中央小学校における学習支援

学校での教員との意見交換（6月24日、7月9日）

フィールド踏査・利用施設との調整（6月23日、7月8日、8月20日）

フィールド学習の事前案内

実施日時：令和2年8月5日（水）

15:50～17:10

実施場所：釧路湿原右岸堤防（鶴居村温根内）
堤防沿いの湿原

対象：5年生担任教諭

主な内容：フィールドおよび実施プログラムの紹介



フィールド学習実施時のプログラム進行

実施日時：令和2年8月21日（金）8:40～11:50

実施場所：温根内ビジターセンター、釧路湿原右岸堤防、堤防沿いの湿原

対象：5年生33名

主な内容：移動車中での車窓風景の解説、施設内展示物の解説、湿原内でのプログラム進行、釧路湿原右岸堤防からの車窓風景の解説



➤ 釧路町立別保小学校における学習支援

学校での教員・地域コーディネーターとの意見交換（6月23日）

フィールド踏査・利用施設との調整（6月24日）

フィールド学習の事前案内

実施日時：令和2年7月29日（水）

14:45～17:30

実施場所：細岡展望地および周辺フィールド

対象：5年生担任教諭、
地域コーディネーター

主な内容：移動中での車窓風景の解説、
フィールドおよび実施プログラムの紹介



フィールド学習実施時のプログラム進行

実施日時：令和2年8月5日（金）8:40～12:00

実施場所：温根内ビジターセンター、釧路湿原右岸堤防、堤防沿いの湿原

対象：5年生33名

主な内容：移動車中での車窓風景の解説、展望地周辺フィールドでのプログラム進行



➤ 標茶町立標茶小学校における学習支援

学校での教員との意見交換（4月2日、6月23日）

フィールド踏査・利用施設との調整（4月14日、6月15日、6月23日、6月25日）

フィールドの事前案内（7月3日）（※）

フィールド学習実施時のプログラム進行（7月9日）（※）

※）2.自然再生の学校教育への活用促進を参照

今後の取組みの方向性について

1. 委員から挙げられた意見

○学校支援 WG 会合での議論

昨年度実施した学校支援 WG 会合において、これまでの取組みの評価を行い、今後求められる視点として以下が挙げられた。

- ・ 小学校、中学校、高等学校における学びの連続性
- ・ 学校教育と社会教育が一体となった教育
- ・ 教員の意識への働きかけ

《主な意見》

- ・ 小学校、中学校、高校と学習がつながっていく中で探求の力をつけさせていきたい。
- ・ 中学校ではキャリア教育の切り口から職業体験を行なうなど、湿原をフィルターにして多方面に気づきを促せると良い。
- ・ 様々な発表が小学校から定着していけば、中学校、高校に行った時に、自分たちの研究スタイルが出来るようになっていく。
- ・ 研究を支えるシステムを作るとともに、研究内容を見せ合える場が年に1回持てると良い。
- ・ 学校単位で様々な主体と連携を作っていくことは難しく、仮に先生だけで専門家とやり取りしていくことを目標にするのであれば、取組みに工夫が必要。
- ・ 資質能力ベースの学習が重要であり、先生方の意識に働きかけていくことも必要。
- ・ 学校教育と社会教育が一体となった教育が重要。

○委員への個別ヒアリングでの意見

本年度の状況も踏まえて、今後求められる取組みを委員にヒアリングし、以下の意見が挙げられた。

- ・ WEB 環境の積極的な活用
- ・ 映像資料と実物サンプルを組み合わせた湿原の教材化
- ・ 学校の身近な環境を活用した湿原をテーマとしたパッケージドプログラムの作成

《主な意見》

(WEB 環境の積極的な活用)

- ・ オンラインでの外部講師による講話や質疑、導入や事後学習に活用可能な映像資料の提供
- ・ 道徳において保全等に関わる人の話を動画で配信
- ・ 学習発表会をライブ配信することで、多様なフィードバックを行う機会にもなる。
- ・ 釧路湿原サイエンスフェアを WEB 開催とすることで、距離の問題を取り去ることができ、子どもたち同士が互いの成果を共有したり、地域を問わず様々な人が児童の成果を閲覧することができる。

(映像資料と実物サンプルを組み合わせた湿原の教材化)

- ・湿原を訪問することは学校にとっては非常にハードルが高い。中学校における新指導要領の地の単元では、野外観察・実物の観察を正面から組み込んでおり、こうした背景も踏まえて、映像資料と実物を組み合わせて教材化し、「湿原が学校に向く」スタンスが今後求められる。
- ・映像で見たものが手元にあり、触る、大きさを感じるなどができれば学習効果が全く違う。

(パッケージドプログラムの作成)

- ・湿原を感じることができる様々な素材が学校の身近にあり、総合や教科で素材として活用できる可能性を十分に持っているが、教員は学校の環境や季節に適した素材を見いだす力が弱い。
- ・学校周辺でのフィールド学習を支援する場合、授業の型としての提示が必要。
- ・教材の使い方や解説、ワークシート等がセットになったパッケージドプログラムが効果的。
- ・専門性を持つ様々な主体と連携して少しずつ蓄積していき、将来的にはトランクキットのような形で整備し、ゲストティーチャー（訪問やWEB）、現物サンプル、プログラムやワークシートの3点が整備できれば、湿原の教材化を効果的に行うことができる

(その他)

- ・各学校で予定している既存の学習に利用可能な教材の提供。
- ・環境をテーマに総合学習に取り組む学校を対象とした児童自身が調べ学習を行う資料の提供。
- ・プログラミング的思考を育む観点からも、研究発表ボードを活用した探求的な学習を位置付けていく。

2. 継続して行う取組み

委員から挙げられた意見を踏まえながら、これまで行ってきた以下の取組みを継続して実施していく。

○教員研修講座

- ・教育研究センターや各教育研究所等との連携を積極的に図るとともに、研修として公務での参加を想定した公募講座を企画していく。
- ・現職の教員に加え、教員を目指す学生も対象として講座を企画していく。

○釧路湿原を題材とした実践の支援、学びのプロセスの支援、発表の場づくり

- ・学校の要望に応じた学習支援を行うとともに、授業コーディネイト、自由研究発表ボードを活用した学習支援等、年間を通した授業づくりの支援を行っていく。
- ・学年に応じて、湿原が直面する課題、自然再生の取組み等も題材として活用していく。

3. 新たな取組みについて

委員から挙げられた以下の取組みについて、本会合において議論を行い、取組みの方向性について検討していく。

- ① 小学校、中学校、高等学校における学びの連続性
- ② 学校教育と社会教育が一体となった教育
- ③ 教員の意識への働きかけ
- ④ WEB 環境の積極的な活用
- ⑤ 映像資料と実物サンプルを組み合わせた湿原の教材化
- ⑥ 学校の身近な環境を活用した湿原をテーマとしたパッケージドプログラム